

令和7年度真庭保健所運営協議会定例会 議事録

日時：令和7年11月25日（火）

13:30～15:00

会場：真庭地域事務所 3階大会議室

（ウェブ会議システム Zoom 併用開催）

1 開会

（事務局から会議開催の定足数を満たしていることを報告）

委員総数12名のうち代理・欠席を除く出席委員9名

（真庭保健所長挨拶）

本日の協議会は、真庭保健所の保健衛生業務を円滑に進めるために、計画を立て実行し、その成果を評価し、次の改善につなぐ目的で開催するものである。

本県には5つの保健所があり各医療圏を管轄しているが、直面している課題はそれぞれで相当異なっている。

本日は、真庭保健所が課題と考えていることをお話し、主にそれについてご意見をいただきたい。

先日、事前にお送りした資料は、真庭保健所の全ての業務について説明した94ページに及ぶ資料である。こちらについても忌憚ないご意見をいただき運営改善につなげてまいりたい。

（会長、副会長選出）

会長：太田委員 副会長：池田委員

（太田会長挨拶）

真庭地域の人口規模で法に基づく保健所が設置され、このように関係者間で話をし、保健行政に声を反映できるのはありがたいことである。

一方、過疎が進んで深刻な問題もあるので、色々なご意見をいただきたい。

2 議題（議事進行：太田会長（議長））

（1）真庭保健所の運営方針について

（真庭保健所 保健課長、衛生課長からスライド用資料により説明）

○ スライド資料2ページ：

真庭保健所の令和7年度主要施策に沿って取り組んでいる。本日は、真庭保健所が課題と認識している項目に関し重点的に取り組んでいる点をご説明し、真庭保健所の運営についてみなさまのご意見をうかがい、ご協力を賜りたい。

○ スライド資料4～6ページ：管内の概況（人口動態関係）について説明

○ スライド資料8ページ：管内の主な死因の割合（男女別）

○ スライド資料9ページ：死因（悪性新生物）の疾患別内訳

○ スライド資料10ページ：管内の主要死因別標準化死亡比

男女ともに急性心筋梗塞の標準化死亡比が高い状況。肝臓がんも全国よりやや高い状況。

○ スライド資料12ページ：真庭圏域の救急医療の応需状況

搬送全体の約3割が管外への搬送となっており、管外搬送のうち5割強が津山・英田圏域に搬送されている。

○ スライド資料14ページ：岡山県の医療需要と提供実績

岡山県の全住民から発生する入院による手術件数の推計値と、岡山県内の医療機関で実際に行われた手術件数（実績値）を診療科別に示したグラフ。（縦軸：件数、横軸：診療科別に棒グラフの右が推計値、左が実績値、術式別に色分け）

岡山県全体では推計値以上に手術が行われており、実績値と推計値の差分は県外からの流入患者と考えられる。

- スライド資料 15 ページ：真庭圏域の医療需要と提供実績
真庭圏域の全住民から発生する入院による手術件数の推計値と、真庭圏域内の医療機関で実際に行われた手術件数（実績値）を診療科別に示したグラフ。（スライド資料 14 ページを真庭圏域でグラフにしたもの。）
いずれの診療科も実績値が低い状況にあり、実績値と推計値の差分は他の地域に流出して手術を受けた、あるいは手術を受けなかったと考えられる。
真庭圏域の住民は入院による手術を他圏域に頼らざるを得ない状況。
- スライド資料 17 ページ：医療従事者の現状（医師の偏在）
医師偏在指標とは、全国の「医師の偏在」を可視化するため地域ごとの医療需要と医師数を組み合わせて計算される指標で、数値が低いほど医師が不足していることを示す。
岡山県全体の医師数は全国平均より高い。（全国医師偏在指標 第4位の多さ）
県北地域（真庭、高梁・新見、津山・英田）の医師偏在指標は、平均を大きく下回っている。
- スライド資料 18 ページ：医療従事者の現状（医師の年齢構成）
真庭圏域の医師は60歳代以上が5割を超え高齢化が進んでおり、20歳代、30歳代は少ない状況。
- スライド資料 19 ページ：医療従事者の現状（看護師）
二次医療圏別の看護師数を示す表。偏差値で見ると、真庭圏域の看護師数は全国平均より多い状況。（岡山県全体57、真庭圏域55）
- スライド資料 20 ページ：医療従事者の現状（看護師等の年齢構成）
真庭圏域の看護師は50歳代以上が5割を超えている一方、20歳代が8.1%と少なく、高齢化が進んでいる。
- スライド資料 21 ページ：看護職の人材確保に向けた現在の活動
真庭保健所では、若い年代の看護師確保に力を置く必要があると考えている。まず、子どもたちに向けた看護職体験で「看護職になりたいという芽を育て」、次に「看護職確保」のための取り組みとして、高校に出向いて看護就職フェアを開催し、地元看護師や保健師の活動紹介を行っている。地元で看護職に就いた人に対しては、離職を防止し、「育成・定着」を図るための研修会等の看護協会真庭支部の取り組みに、真庭保健所も参画している。
- スライド資料 22 ページ：主な取り組み（「地域における医療提供体制の整備」関係）
 - ① 地域医療構想の推進
真庭地域の医療提供は需要に対して十分ではなく、他圏域との医療連携が必須である。特に中山間部では医療へのアクセスにも課題がある。
真庭保健所ではデータ分析に力を入れ、真庭圏域の直面する地域の課題をより具体的に客観的に示し、2040年を見据えた新たな地域医療構想の策定に着手していく。
皆様から、より多くのデータを提供いただき、共に検討いただくよう、一層のご協力をお願いしたい。
 - ② 医療従事者の不足

医師の偏在、看護師の高齢化の問題は、真庭圏域の大きな課題である。
皆様からご意見をいただきながら、真庭圏域の医師、看護師確保対策の推進や、
看護職と看護学生との交流会など県看護協会真庭支部と連携した取り組みを
継続してまいりたい。

- ③ 救急医療体制の確保
真庭圏域の抱える真の問題点を明らかにし、関係諸方面のご協力をいただきながら取り組んでまいりたい。
- スライド資料 24 ページ：管内産科医療機関の分娩件数の推移
- スライド資料 25 ページ：主な取り組み（「子育て支援・少子化対策」関係）
 - ① 母子保健の推進
安心して妊娠出産できる体制整備を進めてまいりたい。
岡山県と共に真庭圏域の産婦人科医師の配置に関して考えるほか、安心して分娩までの期間を過ごしていただける新たな方法についても検討していきたいと考えているので、ご意見・ご協力をお願いしたい。
- スライド資料 27 ページ：死因（悪性新生物）の疾患別内訳
先ほどスライド資料 9 ページで説明したように、悪性新生物は真庭保健所管内の死因の上位となっており、中でも目を引くのが女性の結腸がんである。
- スライド資料 28 ページ：主な取り組み（「健康づくりの推進」関係）
 - ④ 愛育委員・栄養委員（健康づくりボランティア）との協働
がん検診などの早期発見、早期予防の取り組みを促進してまいりたい。
残念なことに、岡山県では大腸がん検診で、進行がんとして見つかる例が少ない。大腸がん検診は便による簡単な検査である。大腸がんの前段階である大腸ポリープの早期治療も管内で可能である。
愛育委員・栄養委員の皆様には、それぞれの地域において様々な声掛けや健康づくりの推進に大変熱心に取り組んでいただいている。引き続きご協力をよろしくをお願いしたい。
- スライド資料 30 ページ：主な取り組み（「健康危機管理対策」関係）
大規模災害時や新興感染症等に係る健康危機管理について、発生時を想定した平時からの備えとして、研修等で体制づくりに取り組む。
- スライド資料 32 ページ：主な取り組み（「障害のある人の自立と社会参加の促進」関係）
 - ① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築
引き続き様々な関係機関や関係者の皆様と、個別の支援から地域の支援体制に関する協議まであらゆる機会を生かし、連携を深めていく。
 - ② 難病・小児慢性特定疾患への支援
特に災害時支援体制づくりについてご協力願う。
- スライド資料 34 ページ：主な取り組み（「感染症対策」関係）
 - ① 感染症対策
特に高齢者施設などの社会福祉施設に対し、施設自身が適切に感染拡大防止対策を取れるよう研修会や助言などを行っている。
 - ② 性感染症対策
近年、岡山県において、梅毒を始めとした性感染症が増加傾向にあることから、今後も正しい知識の啓発活動に努めていく。
- スライド資料 36 ページ：主な取り組み（「安全・安心な生活衛生の推進」関係）
衛生課では、営業者の方々に対する許認可の手続きや、健康被害の未然防止を目的とした業者への指導といった業務を主として行っており、スライド掲載のとおり、大きく分けて3つある。
 - ① 食品衛生関係業務（飲食店や食品製造業者に関すること）

② 生活衛生関係業務（理美容所、あるいは旅館、公衆浴場などに関すること）

③ 薬務関係業務（薬局や医薬品販売業に関すること）

真庭保健所管内は県内有数の観光地である。蒜山地区や、美作三湯の一つ、湯原温泉という大きな観光地には年間を通じて多くのお客様が観光に訪れる。こういった観光地の関係施設において、例えば食中毒の事故であるとか、風呂に係するレジオネラの感染症などが発生すれば大きな問題になる。保健所では、これらの未然防止のため、大型飲食店や旅館施設への監視・指導、衛生講習、入浴施設での水質検査、衛生管理の助言などを行っているところである。

③の薬務関係業務においては、近年、違法薬物に係する乱用や、市販の医薬品の過量摂取などによる薬物乱用が若年層に広がっている実情がある。真庭エリアでは、今後も引き続き、特に高校生に対する啓発活動に重点的に取り組んでいきたい。

【意見交換】

（真庭警察署）

真庭保健所には精神障害の関係で大変お世話になっている。今回の保健所の施策との関係でいけば、障害のある方とかその他諸々多岐にわたって関係するところがあるように思う。

今後、皆様方それぞれの立場でお願いすることとすれば、やはりこの時期になると、高齢の方が亡くなるケースが多い。例えば、寒くなったことによるヒートショックでお風呂場で亡くなる方などがおられる。我々も巡回連絡等でご家庭を訪問することもあるが、急に発作等で亡くなるケースもあるので、そういったところも気をつけてねと声掛けをしていただければ高齢の方も元気に暮らしていける地域になるのではないかと考えているので、よろしく願う。

（愛育委員）

男女とも胃がんなどの悪性新生物が死因となっているというデータが出ている。愛育委員も新庄村を入れて8支部があるが、各支部で試行錯誤しながら、チラシを作るなどして検診を勧めてくれている。「とりあえず検診を受けてください」といって受けていただくが、2次検診を受けていないのが主な原因。

2次検診については誰に検診の通知が届いているのか愛育委員には分からないが、「通知が来たら、しっかりと受けてください」と言うのが愛育委員の重要な活動の一環である。しかし、このようなデータが出ているので、私たちももう少し力を入れて頑張っていかなければと改めて思った。

また、看護師不足というのも大変である。看護就職フェアなども開催されているが、なかなか人が集まらず、大きな問題だと思っている。実際に看護師になるような、学生とか対象の方があまり来ていないのが現実のようだ。看護師不足は真庭市の大きな問題である。

（保健所長）

先ほど2次検診についてご指摘いただいた。特に、結腸がん、大腸がんの2次検診については、お尻からファイバースコープを入れられることを非常に恐怖に思われる方が多いのが一つの大きな原因だろうと思う。

最近はこれに対し、必ずしも大腸ファイバーでなくてもCTで腸のポリープを見つけることができるので、こういった知識を大々的にキャンペーンをしていきたいと考えている。愛育委員の皆さんと一緒に、2次検診は大腸ファイバーだけじゃないよ、もっと簡単にCTもあるんだよということを広めてまいりたい。

（副議長）

CTについては、岡山県全体でも対応できる施設は限られており、そのへんは難し

いところ。

大腸がん検診について、便潜血など簡単だからということで、最初の検診を受ける人は多い。その中で陽性になった人が二次検診に行かれるかというところが一番の問題で、真庭市健康推進課が何回か個別に連絡し精検率を上げるよう頑張っておられる。

去年のデータで解析してみると、検診からのがん発見率は胃がんが少ない。大腸がん、乳がん、子宮がんが割と精検から見つかっている。

(保健所長)

岡山県は大腸がん検診で見つかる患者さんの中に進行がんの割合がかなり多い。まず便潜血陽性の人は二次検診に、どういう形でも何とか持っていく。

高齢の女性は大腸ファイバーを大変怖がるので、技師さんにもよくトレーニングしていただければ、CTを受けられるよう広く普及させることができるのではないかと考えている。

検診で便潜血が陽性だったけど、結局、進行がんになってしまったという人は不幸なことであり、これをなんとか少なくしていきたいと考えている。

(議長)

看護師不足、高齢化についてはいかがか。

(保健課長)

看護師確保については、看護協会で大変熱心に取り組んでいただいているが、先ほどお話があったように、実際それらに参加した方がどれだけ看護師になるか、看護師になっても真庭で就職してくださるかということについては確かに課題が多いと思っている。今後も取り組みをしながら、看護協会ともより効果的なものを探りながら、進めていきたいと考えている。

先日も、高校生に看護師の地域での活躍ぶりをより知っていただけるよう、真庭市内医療機関に勤務する若手看護師から直接、仕事内容を聞く機会を設けたところである。そのように少しずつでも「地域で看護師になるというのはどういうことだろうか」、「どういう良さがあるのか」、「ここで働くことの魅力」といったところも伝えていければと思っている。

(議長)

看護師の関係でいうと、真庭市（の医療機関等）で一定期間勤務した場合は、返還免除となる奨学金がある。毎年、一学年に3人ぐらいであれば真庭市の場合やっつけるのでそういう形だと思っている。

看護師になるには看護大学に行くのが圧倒的であるが、高校看護科3年で准看、専攻科2年（5年一貫教育）で正看になるのが最も早い道なので、家庭の事情や本人の考え等で、むしろ貴重な選択肢になる。今も県外から来ている人もいるし、寮も整えて、全国からでも集まってきてというふうにして、ぜひとも真庭高校を残していくということで、県に強力をお願いしている。

前がんについては、前がん状態が見つかったとしてもその場で切って終わりといった体験談みたいなものを出していくと、結構、皆さん、「あ、受けようか」となるのではないかと。内視鏡であれば、入れてそこで切れるので、そういうことも含めて普及していければと真庭市では一生懸命やっている。

(愛育委員)

看護就職フェアは、10年ほど前、ここ（保健所運営協議会）でどうしたら看護師が増えるかということで話し合ったときに「真庭でも看護就職フェアをしてはどうか」と私が提案して以来、ずっと続いている。責任を感じており、私もできるだけフェアに出席して現状を見ていかねばと思っている。

(民生委員)

私達、民生委員は、高齢になっても最後まで家にいて、この地域で最後までいられ

てよかったと言われるような地域づくりをするために、課題を解決する組織ではなく、地域の中で行政と一緒にあって課題を解決するような、困っている方を行政に繋いで行政と協働していくような組織である。

看護師不足については、昭和40年代、50年代は、おばあさん、お母さん、お嫁さん、娘さん、家族そろって、みんな病院に勤めていただいていたような時代があった。

今、病院を訪ねて、古くからいる人に娘さんどうしてるのと聞いてみると、跡を取っていただいていない方が多いようである。

地域の医療は地域で支える、暮らしをフォローしていく者の務めとして、「看護師さんになるのはどうですか？資格を持って帰られたらこういうところがありますよ」と情報提供し、地域の中で人を確保していく必要があるのではないか。そういう中で我々も活動していけば、少しはお役に立てるかなと感じた。

(食品衛生協会)

私の関わったところで、まず、食品衛生の件について、今年、毒茸による食中毒が1件のみ発生している。これからはノロウイルス等が発生する時期である。皆さんも気をつけていただきたい。

次に薬物関係について、若者による大麻の薬物関係が増えているようなので、若い人に注意喚起をすることが大切かと思う。

それ以外では、7項目の中でやはり問題なのが、少子化の問題である。これは全国共通であり、どこの市町村も少子化ということで手詰まりの状態だと思う。

真庭市もそういう状態でありながら、行政がこれからどうやって取り組んでいくのか、妙案でもあればうかがいたい。

(議長)

薬物の関係で事務局から何かあるか。

(衛生課長)

大麻については、従来、覚醒剤が多いと言われていたが、大麻の対応も大変増えてきている。法律規制も若干変わり、今までは使用罪というものがなかったが、そういったところも罪が適用されることになり、今後、検挙者が増えてくる可能性もある。

若い子が知らない間に手を出していることがあるので、そのようなことを十分周知していきたい。

真庭地区でも覚醒剤等薬物乱用防止指導員ということでボランティアの皆様方のご協力をいただきながら啓発活動に取り組んでいる。今後も引き続き協力願いたい。

(議長)

少子化については、一つはやはり社会経済環境の変化が一番大きく、また、経済的な問題抜きでは語れないと考えている。

(副議長)

一番の問題はやはり医療従事者の高齢化だろう。看護師の高齢化もある。さきほども話に出たが、「高校に入って進路を考える、4大の看護科に行く」というのは、もちろん今の通常のパターンだろうが、真庭にせつかく高校があって、そこに行こうとすれば、やはり資料にあるように、キッズとか中学生に対し、看護に向かっていくような方向付けを刺激するのが一番だろう。先ほども言われたように、身近に看護師が、あるいは介護職がいるというような子供の時から意識付けが大切である。本当に短期間で安く看護師資格を取れる道があるので、できればそのようなことも一緒に宣伝してほしい。

また、救急搬送件数について、コロナの最盛期は本当に大変な状況だったが、今は割と落ち着き、件数も横ばいではないか。

(保健所長)

総搬送件数は、おっしゃるとおり、そんなに変わっていない。

コロナの時も多すぎた、低すぎたというのはあまりなく横ばい状態だったように、データ的には記憶している。

今後も搬送件数はそんなに変わらないとは思いますが、今問題なのが、宿日直許可という制度である。夜間・休日の当直医は通常のような働き方をさせてはならないという決まりがあり強く言えないというのが、救急患者を受け入れてもらえない一因となっている。もう一つは、放射線技師、あるいは検査技師が夜中に病院に常駐していないため、レントゲンを撮れないのに救急患者を受け入れるというのは非常に医者としてはリスクが高く断らざるを得ないというような現実も現場の院長先生方からうかがっている。

(議長)

湯原温泉病院も去年から1年間、外科関係の医師がおらず、夜間、救急を受け入れようにもできなかった。レントゲン技師・放射線技師がいてくれたら、という事情もあると分かった。

(県議会議員)

私からは、最近、若年層のがんの罹患が増えていると感じている話題を。特に大腸がんで、先ほど所長も言われた通り、分かったときには相当進行しており命を落とされている。一部報道では、全国的に特に若年層のがんが増えているということで、食生活が変わったなど色々な憶測が出ているが、真庭の状況はどうなのか。

皆さんの命は等しく大事であるが、20代、30代は結婚して子育てをしているところであり、罹患し命を失うというのは相当大きな影響がある。

若い方々の大腸がんの罹患状況、近年の推移や傾向のデータを持っていれば教えてほしい。また、少し空白期間ができてしまったが、子宮頸がんワクチンについても、若い人の接種状況をぜひ教えてほしい。

(保健所長)

大腸がんの年齢分布については、コロナが終わって令和5年の1年分のデータしかない。もう少しすれば令和6年分のデータが出てくるので、それらと比較しながら、どういう変化が起こっているか、あるいは手術を受けている人たちが他地域と比べて年齢に差があるかというようなことを、あまり全国的には差がないと思うが、見ていきたい。

それともう一つ、大きな理由ではないかと推測しているのが住民への知識の普及状況である。大腸がんは、大腸だけでなく肝臓や肺に転移したりする。大腸がんに限っては転移したところを切って取れば長生きできることが明確に分かっている。そういう知識が広く普及しているところの患者さんは「肝臓に転移したから焼き切ってもらおう」という発想になるが、この辺りの皆さんがそういった知識をお持ちかどうか。「肝臓に来たからもう駄目だ」と思ってしまうと、せっかく長らえる命も長らえなくなる。知識を普及するキャンペーンも行っていく必要があると考えている。

(副議長)

大腸がんについて、20代、30代はがん検診年齢ではない。これを見つけるのは難しい。

(保健所長)

子宮頸がんは昔からヒトパピローマウイルスの感染症と分かっている。早く撲滅するためワクチンを接種を推進しなければならないが、十数年前、ワクチンで亡くなったという噂が出たことで日本ではなかなか難渋した。

海外では子宮頸がんの死亡率はどんどん下がってきているが、日本だけ死亡率が高いままである。今、再び、ワクチンを接種していこうという機運になっているので、なるべく早くワクチンを接種してあげて、海外に負けないようにしなければならない。

(議長)

国は非常に慎重になったが、真庭市は岡山県で一番早く接種した。

(県議会議員)

大腸がんにしろ、ワクチンにしろ、予防保健である。宮原所長が言われた通り、早く分かれば大丈夫なんだよというようなことが分かれば、もっと気軽に検診を受けられる。CTで撮れるとかであれば、もっと受けやすくなると思う。

こういった情報を、これまで愛育委員の皆さんや本当にいろんな方々が、力を入れて頑張っていた。さらに受診率をもっと上げていこうと思ったら、今の若い子がアクセスしやすい媒体を使うなど、いろんなやり方があると思う。

私も県議会で提案したことあるが、例えば、広島の方ではペイフォーサクセス (Pay For Success: PFS。成果連動型民間委託契約方式) で社会課題を早期発見することにより将来の医療費が抑制されるということで、将来の医療費が削減された成果を対価として受託者に支払うやり方なども取り入れている。

人の大事な命を守っていく大変貴重なことだと思うので、ぜひ色々と進めていただきたい。また、罹患状況だけでなく、予防保健に関わる統計データをしっかりキャッチしPDCAを回していただきたいというのを強く要望させていただく。

(薬剤師会)

薬剤師も高齢化と人手不足が真庭では非常に顕著であり、新しい薬剤師がほとんど入ってこない現状である。今はおそらく「全くいなくて困る」ということはないが、10年後はどうなるかと心配している。事務員の募集も5年くらい前の感覚で年収を提示しては全く相手にされない感じである。最低賃金も上がっているし、1人増やすのに、相当、計画を立ててからでないと会社の運営も厳しくなる。効率を上げるしかないと思えば現場からも不満が出る。国は賃金を上げろというが、調剤報酬は毎年必ず下がるという状況で、非常に厳しい運営を強いられる。薬局関係はそんなちょっと厳しい感じで、全く笑えるものではない。

(歯科医師会)

せつくなので2点だけ言わせてほしい。

昨年度もお願いしているが、今回の資料には歯科に関することが本当に少ない。人数が何人だとか歯科診療所が何ヶ所だとかで、他の歯科に関するデータや問題点などを取りあげていただけないのがすごく寂しいところだ。

例えば、医師も一緒だと思うが、歯科医院でもやはり衛生士、技工士というコ・デンタルの方々の求人がすごく困っている。特に、衛生士がいない診療所も数多くある。

歯科も医師と同じように高齢化しているし、なかなか若い人が帰ってこず、衛生士もいないという状況で、本当に緊迫している。歯科衛生士も技工士も国家試験を通ったプロフェッショナルである。こういった方々が何人いるだとか、そういったデータも、できれば、こういった資料の中に組み込んでもらいたい。

また、岡山県内に3校ある歯科衛生士養成校のいずれも定員割れとのことで、本当に苦慮されている。例えば、真庭圏域から歯科衛生士養成校に行くことが分かっている場合に何らかの支援があるのであれば、歯科医師会からも情報発信したいと思う。

歯科衛生士は、岡山県歯科衛生士会はあるが真庭支部はない。

なお、歯科医師は岡山県歯科医師会に1,000人以上入会しているが、歯科衛生士は卒業後、歯科衛生士会に入る方が非常に少ない。真庭市では衛生士会としての活動ができないため、津山支部に組み込まれているという状況である。

このようなことも知られていないと思うので、そういったことも含めて、いろんな情報をヒアリングしていただきたいのでよろしく願う。

(保健所長)

歯科の医療ビッグデータもあるので、今後、分析してデータをお示ししたい。

(小学校長会)

教育の立場からいろいろ考えるところがあると思いながら聞かせていただいたり、資料を拝見した。お医者さんが不足しているという話題があったが、学校現場も教員が非常に不足しており、どこも人材不足なんだと感じた。

また、この資料にあるところ全てにおいて、学校というか、子供たちのことが関わってくると非常に強く感じている。学校には支援を要する子供たちもたくさんいるが、その子供たちが将来大きくなると精神保健というあたりで支援が必要になる子もいるだろう。早期から薬物乱用についても教育をしているというところ、学校給食等を通して、食についてもしっかりと子供たちにも伝えていっているというふうなところで、たくさんのことを学校現場でもやらなければならないと感じながら聞かせていただいた。

(議長)

ネグレクトの関係も、学校で歯科医師が歯の検診をするとよく分かるとのことで、真庭市でも連携を強めているので、よろしく願う。

(新庄村)

村としては、村の診療所では限界があるので、真庭の病院が不可欠である。

先ほどの説明にもあったように、どの分野も人材不足であるが、特に医師や看護師の不足が重要になってくると思う。

新庄村の子供たちが医師や看護師になれるよう支援する補助金や奨学金の制度が村としてまだできていないので、早急に考えなければならないと感じた。

(議長)

湯原温泉病院は去年2億円の赤字が出ており、このままでは病院が維持できなくなるような非常に深刻な状況である。経営診断を入れて、今、一生懸命、再建しようとしているところである。

3 閉会

(池田副会長挨拶)

とにかく、真庭市の人口減少、生産年齢人口の減少ということで、どの分野においても同じように、働く人が少なくて困っているのだなと思いながら聞かせてもらった。

このような中で、真庭の健康、保健を維持していくために、皆さん、保健所と一緒にあって、いろいろな意見を出しながらやっていきたいと思う。

感染症については、今、インフルエンザが警報級という話である。コロナも依然としてあり、来るべき新型のインフルエンザ、新しい新興感染症に対しても、これまでのコロナの知見を生かして保健所とも取り組んでいこうという時代に入っている。何かあったときにはよろしく願いたい。